北村滋氏 新理事に
国家安全保障局長など歴任

北村　滋氏

安西　博見氏

9月の理事会で、学校法人国士舘寄附行為第6条第1項第3号および第8条第1項に基づき北村滋氏が理事に、同寄附行為第33条第1項第4号および第34条第1項に基づき北村氏と安西博見氏が評議員に選任され、それぞれ10月1日付で発令された。

略歴は次のとおり。

【理事・評議員】

北村　滋（きたむら・しげる）64歳。北村エコノミックセキュリティ代表。昭和55年東京大学法学部卒業、同年警察庁入庁。フランス国立行政学院留学を経て警視庁本富士警察署長、同庁警備局外事情報部長、徳島県警察本部長、兵庫県警察本部長などを歴任。その間、在フランス大使館一等書記官、第1次安倍内閣総理大臣秘書官、長官官房総括審議官などを務めた。

平成23年野田内閣で内閣情報官に就任。第2次～第4次安倍内閣では特定秘密保護法制定のかじ取りをした。内閣情報官としての在任期間は7年8カ月で歴代最長。第4次安倍内閣の改造に合わせて国家安全保障局長・内閣特別顧問に就任。同局経済班を発足させ、経済安全保障政策を推進した。菅（すが）内閣で国家安全保障局長に留任。令和2年、米国政府から国防総省特別功労章を受章。同3年7月退官。

【評議員】

安西　博見（あんざい・ひろみ）70歳。昭和50年国士舘大学法学部卒業、同年学校法人国士舘専任職員に採用。人事課長、調査役、財務部長、総務部長、理事長室長などを経て、平成20年学校法人国士舘理事、同常任理事。同23年再任。平成25年に退職後、国士舘百年史編纂委員会専門委員会委員として、史料の編さん事業に貢献した。

新評議員に安西博見氏

授与式で記念撮影する卒業生（21世紀アジア学部）

91人に学位記授与
所属学部ごとに授与式を挙行

本学は、令和3年9月卒業生および修了生に対する学位記授与式を9月16日、世田谷・町田・多摩の各キャンパスで実施した。卒業したのは、学部85人、大学院修士課程6人の計91人（うち留学生40人）。全体での卒業式挙行は、東京都への緊急事態宣言延長を受けて中止した。

修学キャンパスの各会場で授与式に臨んだ卒業生らは、各学部長、研究科長から一人一人学位記を受け取った。参加した教員らは「コロナ禍での学生生活で思うようにいかなかったこともある中、修練を重ね、この日を迎えられたことをうれしく思う」などとたたえ、未来に向かって羽ばたく卒業生に対し熱いメッセージを送った。

卒業生には、学位記のほか、学長・理事長からのはなむけの言葉（要旨別掲）をつづったリーフレットや卒業記念品などが贈られた。

避難所運営の訓練も
防災リーダー養成 447人が実習

避難所運営の図上訓練

本学は、9月6日から15日までの10日間にわたり、世田谷キャンパスで「防災リーダー養成論実習」を実施し、計8クラスの実習に7学部から447人が参加した。

この授業は、本学防災・救急救助総合研究所の教員が講師となり、災害対応のための知識と技術を習得する集中実習。現場で動くことを前提とした実践的なプログラムとして毎年開講している。

昨年はコロナ禍によりオンラインのみの実施となったが、今年はオンラインでの講義に加え、感染防止対策を徹底することで2日間の対面実習が実現。宿泊実習を除き例年に近い形での実施となった。

学生らは、過去の震災の実例を基に基礎的な知識を身に付ける座学実習をはじめ、各自の居住地域のハザードマップを基にした「マイ・タイムライン」作成、応急手当・搬送法・災害トリアージ実習、避難所運営図上訓練、一人一体のマネキンを使用したBLS（一次救命処置）、ロープワーク、被災時を想定し救助者役として活動する総合シミュレーションなど、実践的な訓練を通して幅広く学んだ。

今年はパンデミック下を想定した救助や避難所運営の要素も盛り込まれたプログラムとなり、学生らは配布された非常食や簡易トイレを各自が自宅で使用する、実習期間中の自分の水分摂取量を測定するといった実体験を重視した内容にも取り組みながら2日間の日程を終了した。

修学配慮の対応 議論
FD・SDシンポジウム

本学FD委員会および職員研修委員会は9月11日、第2回FD・SDシンポジウムをオンラインで開催し、教職員約200人が参加した。今回は「修学に配慮を要する学生対応」をテーマに3部構成で行われた。

第1部では、本学学生相談室の山家卓也精神科医が、修学に配慮を要する学生に起こりうる困りごとについて具体的に紹介し、「個々の発達特性を理解し、阻害要因を取り除くことで、本人も周囲も困らない状態にする。困りごとについて気付いた人がその気付きを共有し、適切な支援につなげることが合理的配慮となる」と述べた。

第2部では、教育心理学が専門の金子直人文学部教授や特別支援が専門の松浦孝明同准教授、本間貴子同講師が、修学配慮学生への対応について講演した。その中で松浦准教授は、授業資料のユニバーサルデザイン化を進めること、そして必要な配慮について「できない」から「どうしたらできるか」に発想を変換することを促した。

第3部では、先の4人に加え、防災・救急救助総合研究所の月ヶ瀬恭子准教授がパネリストとなり、宍倉悠太法学部准教授のコーディネートのもとパネルディスカッションが行なわれた。授業内外での配慮方法について、具体的な事例が紹介されるとともに、複数の関係部署との調整役となるコーディネーターの有用性が示された。最後に宍倉准教授が、共生社会の実現に向けて合理的配慮を積極的に進めることの必要性を確認し、ディスカッションを締めくくった。

「生涯学習」秋期公開講座
地域住民ら30人 オンライン受講

生涯学習センターが主催する秋期公開講座2講座がオンラインで開催され、地域住民など合わせて約30人が受講している。

9月22日～11月24日の「古都ローマ考古散策」（全9回）は、神奈川大学国際日本学部非常勤講師の江添誠氏による講座で、図版や写真、CGアニメーションを多用し、現存する古代ローマ帝国の遺構や歴史的建造物について考古学の視点から学ぶ。

9月22日～12月1日の「古文書を読む」（全9回）は、本学文学部の泉正人非常勤講師による恒例の人気講座で、江戸時代の文書や記録類をテキストに、時代背景の解説も交えながら文字の解読に取り組んでいる。

本センターは、12月から3月にかけて、今回の講座の続編となる講座を開講予定で、現在申し込みを受け付けている。

【お問い合わせ】

生涯学習センター：03（5451）1921

ハラスメント相談員 サポート方法を研修

7月9日、本学のキャンパス・ハラスメント相談員を対象とする研修が世田谷キャンパスのメイプルセンチュリーホール5階第1会議室で行われ、教職員で構成する相談員17人が参加した。

まず講師が、最近の大学におけるハラスメント問題の特徴や背景、判断基準などについて説明し、「相談員の役割は、相談者が抱える問題をどのように解決するのが最善なのかを、相談者自身が見出せるようにサポートすること」と述べた。さらに、信頼関係の下で事実関係や相談者の感情を把握し、整理することに努める必要があると強調した。

次に受講者は、さまざまなケースを例に、具体的な相談への対応方法や注意事項などを学び、自身の相談対応方法の研さんに努めた。

本学園は、「キャンパス・ハラスメント防止等に関する規程」を制定しハラスメント防止に取り組んでおり、25人の相談員が定期的な研修を積んでハラスメントに関する相談に応じている。

教育後援会から寄付受贈

学校法人国士舘と本学学園祭実行委員会は、国士舘大学教育後援会より寄付金を受贈し、8月6日に世田谷キャンパスで贈呈式が行われた。

教育後援会の山田慎吾会長と山崎伸副会長ら

目録を受贈した大澤理事長（左）と山崎副会長

は、大澤英雄理事長に6370万円分の目録を手渡した。山田会長は「大変な時期かと思うがぜひ役立ててほしい」と話し、大澤理事長は「幅広く活用させていただく」と謝意を表した。

また同日、各学園祭を代表して楓門祭実行委員長の加藤颯さん（法3年）が、合計40万円分の目録を受け取った。加藤委員長は「昨年は中止となったが今年は開催することに意義がある」と、実現に意欲をみせた。

本学教育後援会は、在学生のご父母を主体に学生の支援事業を継続的に行っている。

大澤理事長に特別功労賞
JFAが100周年表彰 防災総研は感謝表彰

9月29日、公益財団法人日本サッカー協会（JFA）の100周年表彰が発表され、本学園の大澤英雄理事長が特別功労表彰を受賞した。特別功労表彰は、日本サッカー界において、普及や発展への貢献が特に顕著であると認められた者に贈られる賞。大澤理事長は、JFA特任理事、全日本大学サッカー連盟理事長などを歴任したほか、少年サッカーチームを設立するなど育成にも取り組んできた。

このほか、本学防災・救急救助総合研究所が、日本サッカー界に多大な協力をしたとして感謝表彰を受賞した。本学は平成18年から、東京都少年サッカー連盟が主催する大会で救護活動を担い、長きにわたり安心・安全な大会運営を支えたことが評価された。

室内換気の改善 討論
南研究室がシンポジウム

本学理工学部建築学系の南泰裕研究室は、芝浦工業大学西村直也研究室との共催で7月13日、オンラインシンポジウムを開催した。令和2年5月に神戸商工会議所の委託を受けてスタートした「科戸の風プロジェクト」で行ってきた室内換気のシミュレーション分析と改善対策提案の事例を取り上げながら、現状と今後の課題について、識者とともに考えた。

はじめに、南教授、西村氏、プロジェクトコーディネーターの石原慎一氏がプロジェクトの報告を行った。その後、日本エアーテック株式会社の高木顕二氏が、感染症対策機器を開発・製造する際の気流解析を用いた実証について、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ社で環境設備エンジニアとして活躍する河原大輔氏が、冬季に熱の損失を回収し換気風を昇温するダイナミックインシュレーションの仕組みについて解説した。

トークセッションでは、登壇者がそれぞれの立場から、シミュレーションの定常をどう考えるか、シミュレーションと実測の関係性などの議論を深めるとともに、設備・意匠・快適性などさまざまな観点で建築計画を検討することの意義が共有された。

競争的研究課題一覧

令和3年4月～9月に採択された研究中の課題

事業名等	氏名	所属・職名	研究課題等
公益財団法人トランスコスモス財団「2021年度学術・科学技術等の分野への助成事業」	砂田恵理加	政経学部 教授	Learning and Working in the New Global Order
公益財団法人高橋産業経済研究財団「令和3年度助成金（推薦応募）」	大橋　隆弘	理工学部 教授	ガルバニ腐食抵抗性があり鋼側から接合可能な摩擦攪拌成形を用いたアルミ－鋼の易分解接合技術の開発
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム「A－STEP」	大橋　隆弘	理工学部 教授	複合強化された氷フレーク圧密体による管塑性加工用充填物の開発
東北大学電気通信研究所「令和3年度共同プロジェクト研究」	九鬼　孝夫	理工学部 教授	Beyond-5G の実現に向けた高周波技術の探索
東北大学金属材料研究所「共同利用研究」	神津　薫	理工学部 准教授	YCrB4 タイプを有する固溶体 R（Al，W）B4（R＝希土類）の結晶育成と物理的評価
国立研究開発法人防災科学研究所の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「防災情報共有システムを基盤とした文理融合型の地域レジリエンス強化」	横内　基	理工学部 准教授	地方・中都市を対象とする災害時最適オペレーションの開発
公益財団法人前川ヒトづくり財団「研究助成」	川本　哲也	文学部 講師	「教える」ことの生涯発達とその個人差の規定因の解明

令和3年度科学研究費助成事業採択課題（追加）

研究種目	氏名	所属・職名	研究課題
挑戦的研究（萌芽）	位田　達哉	理工学部 講師	学習意欲向上のための VR と実技演習による革新的な建築施工教育システムの構築

安全・利便性も向上
多摩キャンパスグラウンド 人工芝張り替え完了

多摩キャンパス・多目的グラウンドの人工芝張り替え工事が9月30日に完了した＝写真。

工事は、人工芝の張り替えに加え、グラウンド脇への階段の新設や、ボールがグラウンド外に出ることを防ぐ天井ネットの設置、既存照明設備のLED化など、安全性と利便性を考慮した改修が行われた。

多目的グラウンドは、主に体育学部の実習授業や、ソフトボール部の活動場所として使用されている。

入賞者が決定
高校生建築アイデアコンテスト

9月13日に理工学部建築学系主催の第12回高校生建築アイデアコンテストの入賞者が発表され、三重県立伊賀白鳳高等学校の辻村颯空さんが優秀賞を受賞した。

今年のテーマは「海外で楽しく安心して暮らす家」。辻村さんは、日本の長屋的な空間図式を、ベネチアの伝統的住居群に巧みに融合した点などが評価された。

出展作品は46点。各教員による採点と最終審査会によって受賞者を決定した。授賞式は、新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。

入賞者は次の通り。

【優秀賞】三重県立伊賀白鳳高等学校・辻村颯空さん

【準優秀賞】富山県立高岡工芸高等学校・大井健太郎さん

【佳作】静岡県立科学技術高等学校・吉田ひかりさん／国立明石工業高等専門学校・川枝夕姫さん、松山智咲さん／静岡県立科学技術高等学校・遠藤春華さん／北海道札幌工業高等学校・鈴木涼太さん／鴎友学園女子高等学校・川妻美緒さん

西山一行名誉教授 逝去

本学名誉教授の西山一行（にしやま・かずゆき＝体育方法学）氏が、7月21日に逝去された。79歳。葬儀は親族のみで営まれた。

西山氏は昭和40年国士舘大学体育学部卒業。同年本学体育学部助手、同47年同学部講師、同63年同教授。3期6年にわたり体育学部長を務め、在任中は新学科設置や博士課程開設など教育研究の拡充を図った。平成20年学校法人国士舘評議員。平成25年定年退職。同年本学名誉教授。

在職中は、本学陸上競技部部長として長年にわたり同部の発展に尽くした。選手としては、箱根駅伝に3度出場。3年時には総合3位の成績を残した。

マスコミを追う

【新聞】

●「望遠郷」で、佐藤圭一学長が「回想・僕らの五輪」として寄稿（陸奥新報10月5日）

●オピニオン「運動部とジェンダー」で、男子新体操部監督で体育学部の山田小太郎講師のインタビューが掲載（読売新聞8月19日）

●「平和なればこそ 戦争とオリンピック（中）」で、体育学部の田原淳子教授のコメントが掲載（佐賀新聞8月12日）

【WEB】

●東京五輪で、酷暑により選手やスタッフが熱中症で倒れたり、試合時間が急遽変更されたりするトラブルが相次いだことに関して、体育学部の田中秀治教授のコメントが掲載（時事ドットコム8月10日）

【テレビ】

●北海道北見市のアパートで発生した火災に関し、電子レンジが爆発する可能性について理工学部の二川佳央教授が「スーパーJチャンネル」でコメント（テレビ朝日9月9日）

【雑誌】

●特集「人権リスクを放置できない技能実習制度の曲がり角」で、文学部の鈴木江理子教授が「実習制度は廃止を」として寄稿（週刊東洋経済9月25日）